

ジオパーク全国大会がありました

10月3日から5日までの3日間、「第11回 日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会」が開催されました。この大会は、昨年10月に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により1年延期され、今年度オンラインでの開催となりました。

今大会のテーマは「今、なぜジオパーク？～国引きの地から持続可能な地域づくりを考える～」。時代が大きく変貌を遂げようとする今、地球・自然・人間の原点にあると言えるジオパークの意義について議論することを目的に、基調講演や分科会、パネルディスカッションなどが行われました。

2日目のポスターセッションでは、秋芳中学校の1年生がこれまでのジオパーク学習の成果を全国に発表を行いました。「水をテーマに考える自然保護と自然活用」と題し、別府弁天池や白水の池、江原ウバーレ集落など、地元で流れる水の特徴や人々の暮らし、他県や海外との違いをまとめ、最後に、持続可能な開発目標（SDGs）でもある世界の水問題について、課題とその解決方法について発表しました。

最後に、ジオパーク活動のより一層の進展によって、地方創生を推進し持続可能な地域社会を実現するとして大会宣言を採択し、3日間の全国大会は終了しました。

秋芳中学校1年
池部莉央さん、熊野舞桜さん、
品川葵さん によるポスター
セッション発表の様子



全国大会を終えての感想

今年度、初めて全国大会に参加をしました。基調講演等の視聴や分科会への参加をして感じたことは、ジオパークは地球規模の活動であるということです。地質遺産の保全や地域づくり、郷土愛の醸成、教育、観光振興などを目的に取り組まれるジオパーク活動は、単に私たちが暮らす地域だけの発展をめざすのではなく、気候変動や環境破壊、水や海洋ゴミの問題、差別・貧困・人権問題など世界が抱える多様な課題の解決に向け、日本や世界のジオパークと連携した取り組みにより、持続可能な社会をつくり出すプログラムであることを学びました。

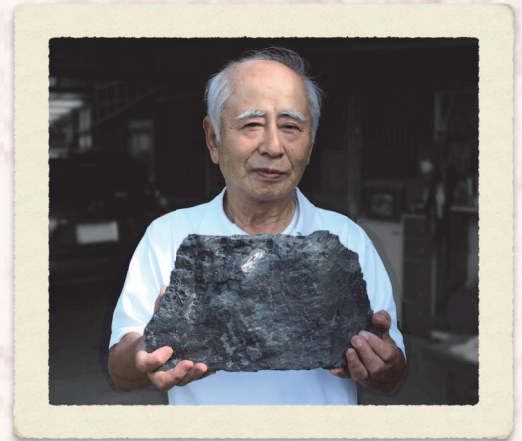
新型コロナの影響で、開催地を見ることができず、また全国の関係者に直接お会いできなかったことは残念でしたが、全国大会で知り得たことをこれからの取り組みに活かしていきたいです。（協議会事務局員）



無煙炭を 寄贈いただきました

▼宮本清重さん

豊田前町にお住まいの宮本清重さんから、無煙炭を寄贈いただきました。宮本さんは、かつて無煙炭を採掘していた宇部興産(株)山陽無煙鉱業所にお勤めされており、この無煙炭は昭和45年の閉山時に記念として会社の許可を得て採掘されたものです。大嶺炭田の地質を知る上で大変貴重な資料となるもので、小中学校で行っているジオパーク学習の見本教材として活用させていただきます。この度は誠にありがとうございました。

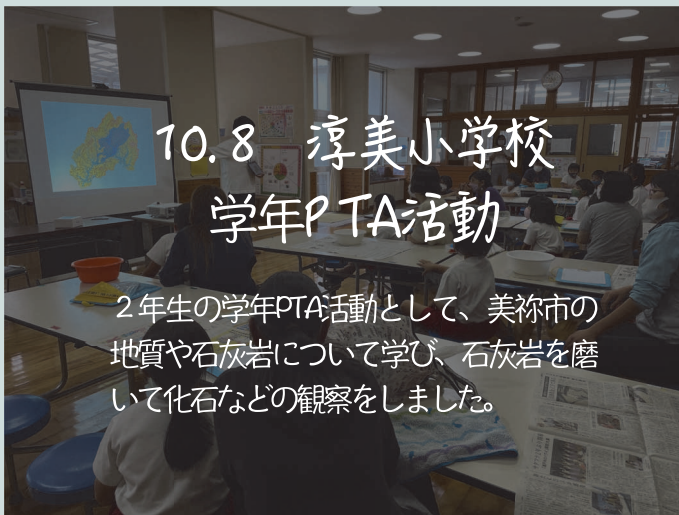


無煙炭に関する見どころはいくつかあります。ガイドが同行する場合のみ見ることができる箇所もあるので、興味を持たれた方は是非ジオツアーにご参加ください。

ツアーの申込み 見どころの一覧

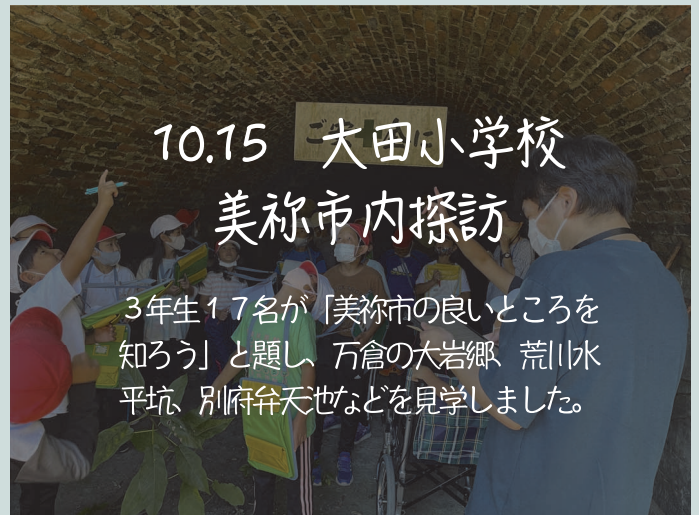


ジオ学習増えています！



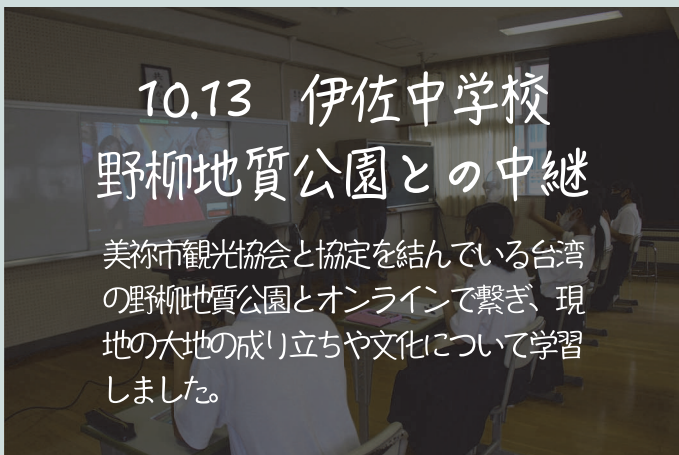
10.8 淳美小学校 学年PTA活動

2年生の学年PTA活動として、美祿市の地質や石灰岩について学び、石灰岩を磨いて化石などの観察をしました。



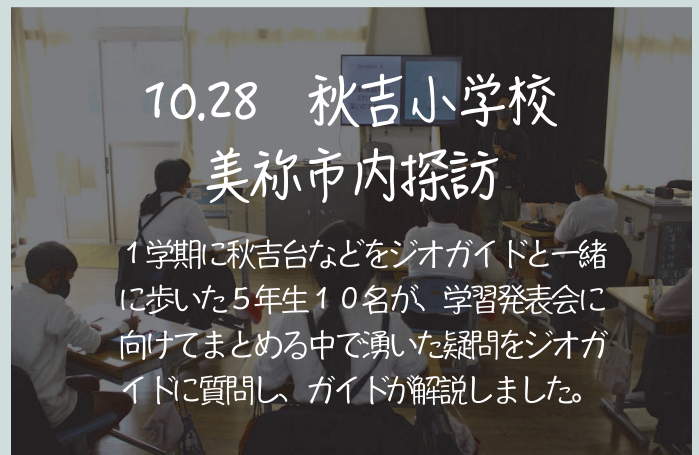
10.15 大田小学校 美祿市内探訪

3年生17名が「美祿市の良いところを知ろう」と題し、万倉の大岩郷、荒川氷平坑、別府弁天寺などを見学しました。



10.13 伊佐中学校 野柳地質公園との中継

美祿市観光協会と協定を結んでいる台湾の野柳地質公園とオンラインで繋ぎ、現地の大地の成り立ちや文化について学習しました。



10.28 秋吉小学校 美祿市内探訪

1学期に秋吉台などをジオガイドと一緒に歩いた5年生10名が、学習発表会に向けてまとめる中で湧いた疑問をジオガイドに質問し、ガイドが解説しました。